浄泉寺報
第44号
2026年
春彼岸

法話をする住職

彼岸会に寄せて

浄泉寺住職　望月廣三

〝祈り〟の姿に感動したことを憶えています。かれこれ三十年も前のことです。彼岸参りに千草にあるご門徒を一軒一軒お参りしているときでした。日がしだいに傾いてきました。夕食どきと重なってはたいへんだと慌てながら、次に行く家に向かって田んぼの中のジャリ道をいそいで歩いていると、農夫が一人、田んぼで鍬を手にしてたたずんでおります。

「何をしてるんやろう…」

一瞬そう思って、農夫の挙動に興味を覚え見つめました。するとそのうち彼は手にしていた鍬を肩にかけ、日の沈みかけた西方に向かって静かに、手を合わせはじめたのです。私はその合掌の姿に、息を呑みました。とても厳かだったからです。

合掌は、右手は仏さまの世界（彼岸）であり、左手は迷いの世界（此岸）だと教えられています。つまり彼岸と此岸が一つになることを意味しているのです。それは表裏一体を現すもので、悟りは迷わねば悟れず、迷いは迷いによって悟れる、という事実関係を教えられているのです。

「一体この人は何なんだ」と思うことがあります。そして気づいたのは、私の子どもではあるけれど、この子の命は私の身体を通過してきただけということです。その不思議さを見る時、私の不思議さにも思いは巡ります。

命というものは死んだら終わりではなく、大きな循環を成しているのかもしれません。例えれば山からの水が川へ、川の水が海へ流れ込み、そして海の水は蒸発し雲となり、また雨となって山に降り注ぐ、そういうものの中に私達はいるのではないでしょうか。始まりがわからないから終わりもない、そのようなおまかせの命であるのに我が物と執着している私達に、阿弥陀様は彼の岸からずっと絶え間なく念仏申せと呼びかけておられます。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

浄泉寺からのお知らせ

●同朋会（月例法座）●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけます。

●こころのセミナー●

六月二十日（土）午後2時～4時
洲本寺町会主催の会で若院がお話します。
[会場] 洲本リサイクルセンターみつあい館
[会費] 五〇〇円（飲み物付）

- 若坊守のひとりごと -

三月、娘と息子はともに卒業、卒園を迎えました。六年生の娘はここ数年、同朋会や法要の際には住職、若院と一緒に出仕しています。年長の息子は長いお勤めを嫌がりますが、手を合わせお念仏申している姿を見ると、大きくなったなと感じます。

しかし時折、自分のお腹で育て、自分の身体から出てきたのに全く違う人格をもつ子どもを見て

お内仏（仏壇）に座る ㊷ ～ 蓮如上人（1） ～

浄泉寺本堂の蓮如上人御影

戦国乱世の時代、本願寺第 8 代蓮如上人（1415～1499）は、その生涯をかけて親鸞聖人の教えを確かめ直しつつ、ひろく民衆に教えをひろめ、本願寺「教団」をつくりあげていきました。このことから、蓮如上人は「真宗再興の上人」と仰がれます。なお、現在の大阪城の地にあった石山本願寺（当時は「大坂」といった）に本願寺を移転されたのも蓮如上人晩年のことです。そして、蓮如上人亡き後、織田信長との石山合戦を経て、天満、堀川七条（現西本願寺）を経て、現在の京都駅前、烏丸通りに面した東本願寺の地につながります。

今日につながる真宗大谷派（東本願寺）や浄泉寺の歴史において、欠くことのできない方のお一人が蓮如上人です。3 月 25 日は蓮如上人の御祥月命日。今回は蓮如上人についてご紹介します。

このコーナーで何度か取り上げている「御文」。これは、蓮如上人が我々にわかりやすく教えを伝えるために書かれたお手紙です。そして、お彼岸のお参りでも皆さんとご一緒にお勤めをする「正信偈」（親鸞聖人が念仏に出遇った感動をうたにしたもの）、その後につづく「和讃」（親鸞聖人が当時の流行り歌の形を用いて教えを分かりやすく伝えようとしたもの）を浄土真宗のお勤めの中心にし、印刷によってそれを広く伝えようとされました。さらに、浄土真宗の御本尊を統一されたり、今日の私たち「真宗門徒の生活」につながる大きなお仕事をされたのが、蓮如上人です。

そのため、浄土真宗の多くの寺院では、御本尊向かって左側に蓮如上人の御影が安置されます。また、全国各地で蓮如上人の御遺徳を偲ぶ仏事が行われています。寺報第 40 号･41 号で紹介した「蓮如上人御影道中」はその代表的なものです。道中では、農作業の手を止め、畑にひざまずいて手を合わせるご門徒の尊い姿にも出あわせていただくことができます。　（浄泉寺若院・釋亜世）

京都・東本願寺から福井県あわら市吉崎までの間を徒歩で歩む、蓮如上人御影道中について詳しくは、右記 QR コードからご覧ください。

令和 8 年(2026 年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和 7 年(2025 年)亡
三回忌	令和 6 年(2024 年)亡
七回忌	令和 2 年(2020 年)亡
十三回忌	平成 26 年(2014 年)亡
十七回忌	平成 22 年(2010 年)亡
二十五回忌	平成 14 年(2002 年)亡
三十三回忌	平成 6 年(1994 年)亡
五十回忌	昭和 52 年(1977 年)亡

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺　　電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３
ホームページ http://jyosenji.asei.info